

●待降節第三十日

泉のほとり

今日の詩篇「第九編」

わたしは心を尽くして主に感謝をささげ
驚くべき御業をすべて語り伝えよう。



主の道を備えよ

洗礼者ヨハネは、ヨルダン川地方一帯で、「罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼」を授けていました。そのヨハネについては預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がする。主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る」と語られていました。

「主の道をまっすぐにする」、彼はそのため
に荒野で「悔い改めなさい。神の国が近づいた」と言って、「罪の赦しを得させる悔い改め」を宣べ伝えていました。すなわち、主の道をまっすぐにすることは、人の心をまっすぐにすることだったのでした。

(ルカ一章一六、一七節参照)

ある時、ヨハネは洗礼を受けに来た「群衆」に向かつて、「嫂の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると誰が教えたのか」と叫びました。それは群衆がヨハネの目には「まっすぐな心」ではなかったからです。彼らはそれぞれ自分自身の罪とまっすぐに向き合うことはせず、洗礼を受けると救われる、罰を免れると思っていたようです。それは、「まっすぐな心、曲がった心で、まっすぐな心ではありません。荒野からはそういったごまかしや、言い訳の通じないヨハネからの叫ぶ声が聞こえていました。そういう

ところですから、心の高ぶっている者たちは高ぶったままでは、また自分のプライドなども捨てなければ荒野に来ることすらできません。もし来たとしてもヨハネの「嫂の子らよ」と容赦無く語る声に耐えられなかったでしょう。しかし、そのヨハネの声を聞いて、「はい、真にその通りです」と、心を低くし、自分を素直に認める「まっすぐな心」の者に洗礼を授けていたところがヨハネのいた荒野でした。そして荒野は自分自身の罪としっかりと向き合っていくところであるゆえに、「群衆の一人」として行くところではありません。自分のすべての生活、自分の仕事、悩み、自分の財産、他の人との関係、家族との関係をも切り離して、神の前で「一人」立つたために行くところでもありません。

アドベントを迎えています。キリストは人の罪のために来てくださいました。十字架のために、私の罪のために来てくださったのです。そのため、ヨハネも荒野で叫ぶ者の声となつて、人の心をまっすぐにしていたのです。何よりも、私たちの心をまっすぐにするために、神の前で「一人」立つ、その黒い焦味の荒野へ赴こうではありませんか。それこそクリスマスを迎える、また再び来られるキリストを迎える者たちのふさわしい心備えではないかと思えます。

(ルカ二章一〜六節)

祈り

○主イエス・キリストのご降誕を祝う
その時が近づいています。ご降誕を
祝う備えをしながら、み子イエスが
再び来てくださる望みを新しくする
時が始まっています。

今日この時をこのように迎えるこ
とを許してくださいました主イエ
ス・キリストの父なる御神。わたし
共がこの地上に生きるとき、広大な
宇宙を思い、無数の星を数えなが
らも、その中で生かされているのち
の不思議さを改めて思います。何と
いう恵み、何という幸いでありま
しょうか。この小さないのちに注が
れる恵みの光を浴びて今、ここに立
つことができております。

皆それぞれに悩みを抱えておりま
す。人にいくら告げても分かっても
らえない悩みがあり、誰も自分を助
けてくれない、誰も自分を助けるこ
とができないという悩みの中に立
ち、それでもなおここに來ることが
できています。そのようなところに
あつても光を仰ぐことのできるその
不思議さを思います。望みを断ち切
られたように思うところで、かえつ

てそこでこそ、主が近いことを悟ることので
きる信仰にわたし共を導き入れてください。
わたし共はその信仰がなければ過ちを犯すも
のです。信仰がないから過ちを犯すのです。
暗闇の中で、自分で自分の足をすくう過ちを
犯すのです。

み言葉をまず第一に聞くという、大切な、
誰にでもできる務めをおろそかにしてしま
います。そのために自分自身を傷つけてしま
います。自分自身を心の病の中に追い込んで
しまいます。助けてくれる人がいないと言っ
て、かえって自分で自分を追い込むような思
いになつてしまいます。人をも傷つけてしま
います。わたし共のこの罪を赦してください。
い。あなたのみもとに呼び寄せてください、
明確に教しのみ言葉を聞かせてください。赦
されて立つ者、解き放たれた喜びの中に立っ
て、お互いのためにアドヴェントの祝福を祈
り求めながらこの場所を去って行く幸いの中
に立たせてくださいますように。
主イエス・キリストのみ名によって、感謝
し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーで
のコーヒースービスと、福音二階リズム室
では、「ぶどうの会」が開かれます。どう
ぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで、讃美と報告の会を
します。お昼はお弁当です。

○午後三時から礼拝堂で、クリスマスイブ礼
拝のゲネプロがあります。関係者はお集ま
りください。

○一六日(金)朝一時からシオンの会があ
ります。ハイデルベルク信仰問答の問七五
から問七七を学びます。新しい方々の参加
を歓迎いたします。

○一七日(土)午後三時から礼拝堂で、幼稚
園クリスマスが行われます。園児たちによ
るダンスとページェントがあります。

○古村牧師は一四日(水)朝一〇時半から行
われる青山学院大学の礼拝で奉仕します。

○紫園香音楽伝道師は、本日午後二時半か
ら、岐阜純福音教会のクリスマスコンサート
で、また一八日は午後三時からインマヌ
エル仙台キリスト教会のクリスマスコンサ
ートで奉仕をします。どうぞお祈りくだ
さい。

ケニアだより

20年の歩み

宣教師としてケニアに遣わされて、29年日になりました。現在は120名の園児、33カ国の子供たちと、毎日礼拝を中心とした保育をしています。

主任のケリーナ先生は1番最初に採用した先生で、20年間共に心を1つにして歩んだ姉妹です。この20年の間、病氣等で欠勤したのは5日のみ、誰よりも早く出勤し、どんなことでも喜んで心を込めて取り組みます。新しい先生たちにも、自分の学んだことを伝え、ケリーナ幼稚園の教育方針を伝えてきました。

ケリーナ先生はケリーナ幼稚園で1番小さな子供たちのクラス、ロビンクラス（1才半から2才の子供たち）を20年間教えています。保育園としてではなく、幼稚園としてのクラス作りをしています。

最初の1週間泣いている子供たちも、2週目、3週目からは楽しく登園してきます。お母さんから離れて4時間幼稚園で過ごしています。

ケリーナ先生は小さい時にポリオを患い右足と左手が少し不自由です。右足がバランスを失って転びそうになることもたまにあります。左手で字を書き、ハサミを使い、不自由な部分を他で補いながら、誰よりも努力します。子供たちを心から愛し、決して声を荒らげることな

く、間違ったことを正しつつ、子供たちを決して赤ちゃんと扱わず、1人の人格を持った人として扱う彼女の姿勢は、同僚に尊敬され、保護者からも深い信頼を得ています。

私にとって、ケリーナ先生と働ける事は光栄なことです。20年間、ケリーナ幼稚園で共に働いた先生たちはキリスト教保育に使命を持ち、共に与えられている賜物を分かち合いつつ働いています。ケリーナを離れて自分の幼稚園を立ち上げた人、教会の牧師になった人、子育てに取り組んでいる人たち、そして現在コイノニアの先生として教えている人たちもいます。ケリーナで1つのチームで働いた人たちは、今でも互いに働きを覚え祈り合っています。

神様はご自分のご計画を遂行されるために、必要な人を起こし、その場に置かれ、訓練をして育てられます。そして主の働き人として用いられています。

ケリーナ幼稚園の保育は、子供たちが互いに愛し合い、尊敬し合い、助けあって共に成長することを助けます。そして福音の種をまき、水を注ぎ続けます。

教育にとって最も大切な事は人です。子供たちに関わる人々が最も重要です。ケリーナ幼稚園は教師だけでなく、門番のおじさん、給食のおばさん、水泳の先生に至るまで、すべての人々が心を1つにして、信仰を持って子供たちと良い関係を築きつつ、日々の教育に関わっています。

このように、主にある兄弟姉妹とともに御用に用いていただける事は大きな喜びです。

(市橋さら姉)

聖書の会

○朝の聖書の会

○聖書の夕べ

今季は終了しました。

ミニコンサート

12月15日(木) 13時開演

「ああ、ベツレヘムよ」他
ハンドベル演奏

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌 95番 97番

説教 「主の言葉は実現する」

聖書 ルカ1章39〜45節

説教者 黄允湜 副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌 97番 320番

詩編 第9篇

説教 「聖なる者になろう」

聖書 II コリント6章14〜7章1節

説教者 古村利雄 牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 95番

97番

説教 「歌いにふさわしい実を結べ」

聖書 ルカ3章10～18節 (新約P105)

司式者 山下純一 兄

説教者 聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲 「荒野の果てに」 J.H.シェンカー

○ 讃美歌 95番(1.3.5)

1. わが心はあまつ神を とうとみ

わがたましい 救い主を

ほめまつりて よろこぶ

3. 御名は清く 大御業は かしこし

代々にたえぬ みいつくしみ

あおぐものぞ うくべき

5. アブラハムのすえをとわに かえりみ

イスラエルを 忘れませで

救いたもう とうとさ アーメン

○ ピアノ弾き語りによる讃美

「久しくまちにし」 讃美歌94番

○ 讃美歌97番 (1.3)

1. 朝日は昇りて 世を照らせり

暗きにすむ人 きたりあおげ

知恵に富みたる主 世にいでたり

愚かなる人は きたりまなべ

3. 救いを賜う主 世に生れぬ

高きも低きも きたりいわえ

天地しらす主 世にあらわる

よるずの物みな どよみうたえ

聖餐曲 「バストラーレ」 F.ブリッヂ

後奏曲 「グランドコワイア」 C.ワグネル

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 96番 341番

詩編 第9篇 (旧約P840)

説教 「一点一画も消え去ることはない」

聖書 マタイ5章17～20節 (新約P7)

司式者 山下純一 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允湜 副牧師

前奏曲 「わが魂は主をたたう」 J.S.バッハ

○ 讃美歌 96番

○ ピアノ弾き語りによる讃美

「久しくまちにし」 讃美歌94番

○ 聖歌隊による讃美

「さやかに星はきらめき」 A.77♩

さやかに星はきらめき

御子イエス生まれたもう

長くも やみじをたどり メシヤを待てる民に

新しき朝は来たり 栄えある日はのぼる

いざ聞け み使い歌う 妙なるあまつみ歌を

めでたしきよしこよひ

互いに愛せよとき 平和の道を教え

全てのくびきをこぼち 自由を与えたもう

げに主こそ平和の君 たぐいなき愛の人

伝えよそのおとずれを ひろめよきよき御業を

たたえよ声のかぎり

○ 讃美歌 341番

聖餐曲 「主キリスト、神のひとり子」 J.S.バッハ

後奏曲 「グランドコワイア」 C.ワグネル

※ 礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。